

VI 効果は十分です。

- かかっても症状が軽くて済みます。大切な用件(仕事や受験等)を控えている方は、特に助かります。
- 65歳以上の健康な高齢者の約45%の発病を防止し、約80%死亡阻止といわれています。
- SARS や鳥インフルエンザ、いわゆる「カゼ」(カゼ症候群)には効果がありません。
- 接種後約2週間で効果が現れ、約5ヶ月間持続します。

VII 妊婦や授乳婦、乳幼児(他院にて)は接種できます。

- インフルエンザワクチンは、乳児、胎児に悪影響をおよぼすとは考えられていません。
- 一般的に妊娠中の全ての時期において安全とされています。
(*Birth Defects and Drugs in Pregnancy, 1977*)
(*J Infect Dis 140(2):141-146, 1979, Am J Obstet Gynecol 140:240-245, 1981*)
- 妊娠中にインフルエンザウイルスに感染すると、重度の合併症や入院のリスクを高めるとの報告があります。
(*Am J Epidemiol 1998;148:1094-102, Br J Obstet Gynaecol 2000;107:1282-9*)
- 世界的にワクチンの接種が勧められています。
(*MMWR 2009, Vol. 58 RR-8*)(*J Med Virol 2009, in press*)
- 乳児は、通常生後6ヶ月以降から接種可能です。しかし、当院では行っておりません。ご心配なら、同居の家族が接種し、予防する方法もあります。

VIII 接種後の過ごし方

- ① 接種当日はいつも通りの生活でかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ② 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすらないようにしましょう。
- ③ インフルエンザワクチンの副反応の多くは、24時間以内に起こりやすいです。特にこの間は、念のため体調に注意しましょう。
- ④ 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。
- ⑤ 予防接種と同時に、他の病気がたまたま重なって現れることもあります。

IX 副作用は稀です。

- ① 比較的頻度が高い副作用(約10~20%):接種した部位の発赤・腫れ・痛み。
→通常2~3日で消えます。
- ② 全身性の副作用(約5~10%):発熱(時に39℃以上)、頭痛、悪寒、倦怠感など。
→通常2~3日で消えます。
- ③ 接種直後から数日中(極めてまれ):全身性の発疹、蕁麻疹、全身性のかゆみなど。
→医療機関をすぐに受診してください。
- ④ 接種後30分以内(極めてまれ):ショック、蕁麻疹、呼吸困難など。
→医療機関をすぐに受診してください。

X その他

- ① 接種前に、医師が副作用などを詳しく説明します。よく聞き、分からないことは、何でも質問してください。
- ② 医師の指示をよく守りましょう。
- ③ インフルエンザ予防接種以外は、原則として保険診療となります。
- ④ 万が一、健康被害が生じた場合は、被害を受けた方、またはご家族が独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づいて救済手続きを行うことができます。

かごしま高岡病院 Tel099-226-1370 鹿児島市西千石町14-12